TOINX
ITで、感動を、ともに。

トインクスにおけるDX推進の取り組みについて

公開日：2023年9月13日
（改定日：2024年4月1日）

株式会社トインクス

０．目次

１．はじめに
２．当社を取り巻く経営環境について
３．当社のDX戦略
４．T-DX推進体制
５．T-DXの実現に向けた取り組み
　５－１．業務処理の効率化・省略可
　５－２．業務プロセスの抜本的改革・再設計
　５－３．経営データの可視化
　５－４．いつでもどこでも安心・安全
６．更なるDX推進に向けて

1．はじめに

トインクスでは、IT企業として飛躍するための “みちしるべ” として、 2021年3月に「TOiNX Vision 2030」を定め、これを実現するために日々まい進しております。ビジョン実現に向けた取り組みの原動力は、ほかでもない“人財”です。当社が継続的に成長・発展していくためには、自らが「変わる」ことを恐れず、周囲を「変える」ことができる人財を育成していく必要があります。このためには、社員の意識改革もさることながら、業務改革など実践的な取り組みが欠かせません。

デジタル技術の進展により、ビジネス環境の変化は以前にも増して加速しております。企業や組織のデジタルトランスフォーメーション（DX）が求められている中で、当社は「T-DX（TOiNX-DX）」と称するDX戦略を掲げ、社内の様々な課題に取り組んでおります。この取り組みを通じて、改革意識と行動力を持った人財を育成し、IT企業としての競争力・柔軟性をこれまで以上に高めて参ります。

取締役社長 河田 伸

トインクスは、社内のDXを推進しながら「変える、変える」に挑戦していきます。そして、自らの経験から得られた知見・ノウハウを社外にも積極的に展開し、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまの成長・発展に貢献して参ります。

「TOiNX Vision 2030」に関してはHPを参照ください。
https://www.toinx.co.jp/company/vision2030/

2．当社を取り巻く経営環境について

クラウド、AI、IoTなどの新たな技術の台頭により、企業や組織におけるデジタル活用が急速に進みつつあります。こうしたデジタル化の潮流に加え、リモートワークやテレワークの普及を背景に、非対面・非接触・脱労働集約を前提として、働き方そのものを見直そうとする動きが社会全体で活発化しております。

当社がIT企業として成長し続けるには、高度化するデジタル技術に追随するとともに、時代のニーズに則した制度やルールを積極的に取り入れ、技術・組織風土の両面からDXに取り組んでいく必要があります。

外部環境の変化

- **デジタル技術の進展**（クラウド、AI、IoTなど）
- **働き方の変化**（非対面・非接触・脱労働集約など）

トインクスにおけるDXの方向性

- **新技術への追随、知見・ノウハウの獲得**
- **社内制度・ルールの見直し、組織風土の改革**

3．当社のDX戦略

デジタル化の推進、業務改革、働き方改革などの取り組みを総合して「T-DX（TOiNX-DX）」と称し、これを当社のDX戦略と位置づけ推進しております。

【ビジョン2030】
拡げるIT、
ひろげるつながり、
広がるチャンス

経営ビジョン
（TOiNX Vision 2030）

中期経営計画

直近3ヵ年(2023年～2025年)の取組方針

- 経営戦略と一体となった**"社内のDX"**の推進
- 経験と強みを活かした**"社外のDX"**の加速
- **DXを推進する人財の確保・育成**

ビジョン実現、中期経営計画達成に向けたDX戦略

トインクス社内におけるDX戦略

T-DX

TOiNX Digital Trans(X)formation

デジタル化推進

業務改革

働き方改革

T-DXが目指すゴールイメージ

■業務そのものやプロセスの改革

- 業務プロセスの可視化と徹底したムダの排除
- 社内手続きの完全ワークフロー化
- 必要に応じた規程基準/ルールの見直し

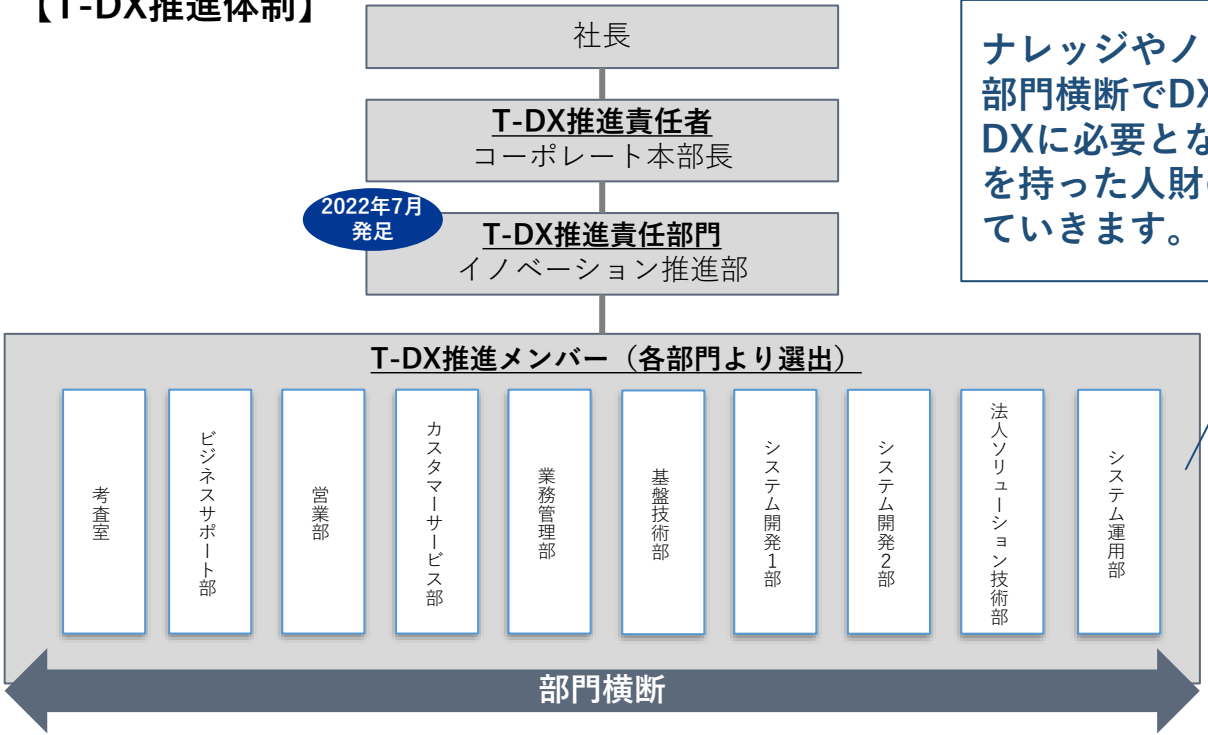
■組織文化・風土および社員の意識の改革

- 「変わる、変える」ための意識の醸成
- 当事者として取り組む主体性やスピード感の向上
- 失敗を恐れずチャレンジできる風土、互いを認め合う文化の醸成

4．T-DX推進体制

当社は、社内外のDXを主体的に推進する部門として「イノベーション推進部」を2022年7月に立ち上げました。当部門をT-DXの旗振り役としながら、全社横断の体制を構築し、社内のDXを推進しております。

【T-DX推進体制】



ナレッジやノウハウを共有しながら、部門横断でDXを推進するとともに、DXに必要となる改革意識と行動力を持った人財の確保・育成につなげていきます。

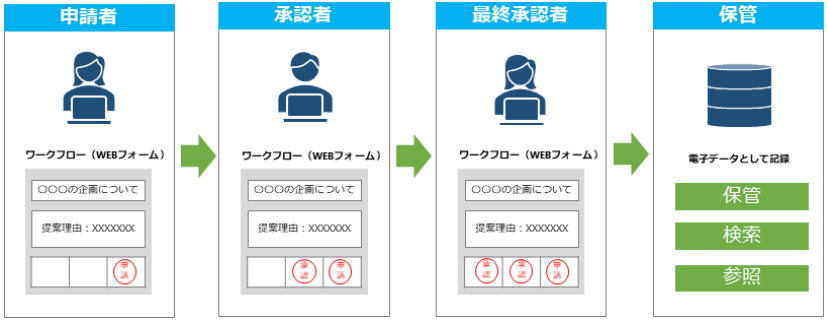
5．T-DXの実現に向けた取り組み

T-DXでは大きく４つのテーマを設け、テーマごとに業務改革や働き方改革等に取り組んでおります。

テーマ	概要	具体事例 （※検討中の取り組み含む）
1．業務処理の効率化・省略化	• 社内手続きの完全ワークフロー化 • 生成AIの活用による業務効率化	• ワークフローシステムの拡大 • 企業内AIチャットツール「T-Chat」の活用
2．業務プロセスの抜本的改革・再設計	• 業務プロセスの可視化・改善 • 縦割り業務の統合・共通化	• プロセスマイニングツールによる業務プロセス可視化・改善 • ITサービスマネジメントツールの導入
3．経営データの可視化	• データドリブンな業務の推進（営業活動や品質管理業務におけるデータ活用など）	• BIツール（TOiNX BI）の活用 • システム開発プロジェクトにおけるデータ解析
4．いつでもどこでも安心安全	• より柔軟な働き方を実現するための社内ルールの見直しと環境整備 • コミュニケーション活性化、社員の顔が見える職場づくり	• テレワークの推進 • スマートフォンの業務活用 • フリーアドレスの推進 • コミュニケーションツールによる情報発信

◎ワークフローシステムの拡大

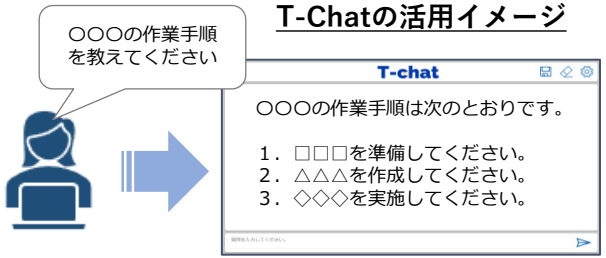
- 2020年より社内の承認手続きの一部をワークフロー化（電子化）。紙やハンコを使わずに社内のどこにいても承認手続きができる環境の整備を進めています。
- 今後も社内の様々な申請・手続きのワークフロー化を推進し、より柔軟な働き方が可能な職場環境を目指します。



◎企業内AIチャットツール「T-Chat」の活用

- 企業内AIチャットツール「T-Chat」を2023年度に社内展開していく予定です。
- 社内の機密情報を厳重に管理・保護しながら、生成AIを活用できるようにすることで、様々な業務の生産性向上につなげていきます。

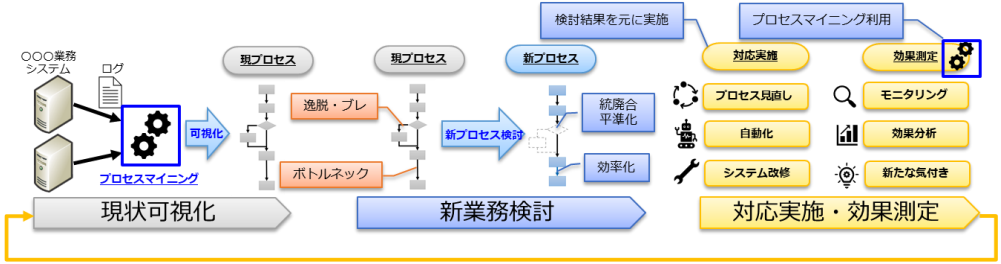
T-Chatの活用イメージ



5－2．業務プロセスの抜本的改革・再設計

◎プロセスマイニングツールによる業務プロセス可視化・改善

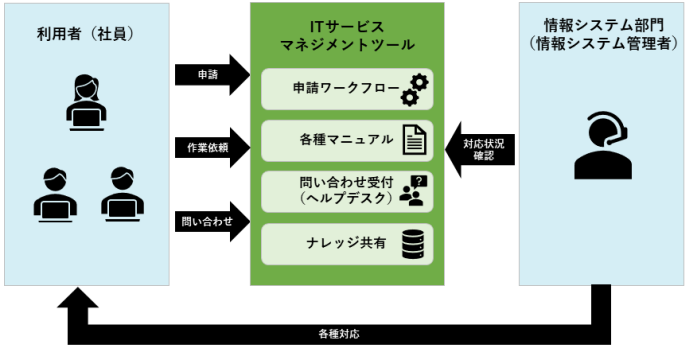
プロセスマイニングツールによる業務改善イメージ



- プロセスマイニングツールの導入を進めており、業務におけるムリ・ムダを定量的に分析し、改善を図ります。
- 2023年度より一部の間接業務をモデルケースとして検証を進め、順次、適用業務の範囲拡大を検討していきます。

◎ITサービスマネジメントツールの導入

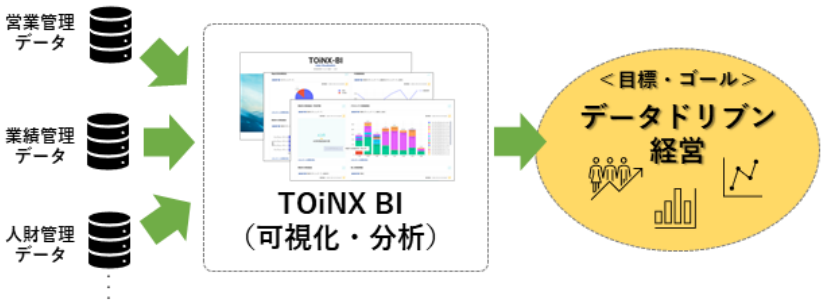
- 社内情報システムに関わる申請や問い合わせ窓口を「ITサービスマネジメントツール」に一元化。利用者（社員）からの申請・依頼に基づき、適切に対応するための社内サービス基盤を整備しました。
- マニュアル類や過去に受け付けた問い合わせ等を、ナレッジとして公開しながら、各職場の業務効率化を推進していきます。



◎自社製BIツール「TOiNX BI」の活用

- 自社製BIツールである「TOiNX BI」を2023年度に社内展開していく予定です。
- 営業管理、業績管理、人財管理などに関わる各種データを集約し、可視化・分析を行うことにより、データドリブンな経営戦略の立案につなげていきます。

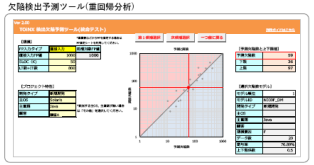
「TOiNX BI」の展開イメージ

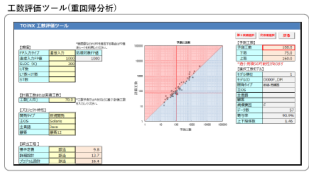


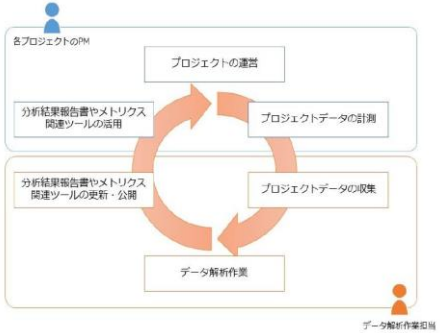
◎システム開発プロジェクトにおけるデータ解析

- ITメトリクス※を用いてシステム開発プロジェクトから得られる各種データを解析することで，業務品質の管理に努めています。
- 解析結果を開発プロジェクトへフィードバックすることで、プロジェクトの効率的な運営につなげています。

※“ITメトリクス”とは、開発プロジェクトの各種データを解析し、予測や妥当性評価に利用できるようにした指標。例えば、規模（SLOCやFP）、工数、欠陥数などの関係性が該当する。



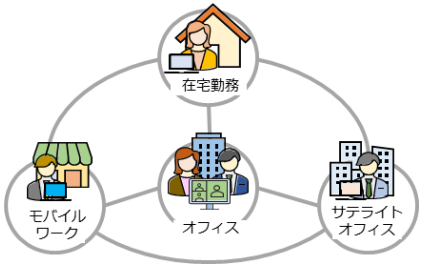




◎テレワークの推進

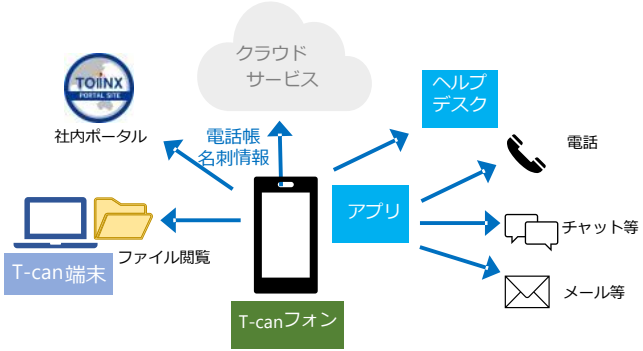
- 社員一人ひとりの多様な働き方を支える仕組みとして、在宅勤務（テレワーク）を制度化、推進しております。
- テレワークの制度化に加えて、社給パソコンを刷新※し、セキュアな環境下で社外でも使用できるようにするなど、“どこにいても安心して働ける環境”の整備に力を入れて取り組んでおります。

※新パソコンを「T-can（TOiNX - communication and network）」と命名。トインクスなら「できる」「やれる」という意味が込め、自社内で管理・運用しております。



◎スマートフォンの業務活用

- 社給スマートフォン（T-canフォン）にメールアプリ、チャットツール、電話帳アプリなどを導入することで、いつでもどこからでもコミュニケーションが取れる環境を整備しました。
- 将来的には、スマートフォンの業務活用範囲を拡大していくことで、更なる業務効率化とコミュニケーション活性化を目指していきます。

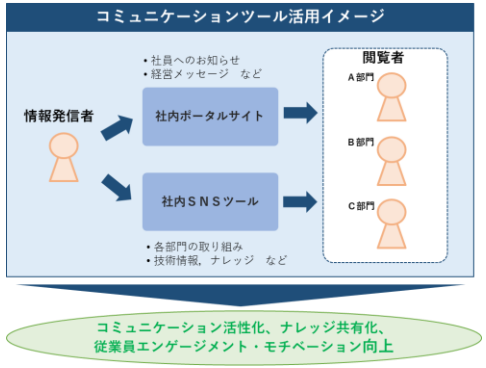


◎フリーアドレスの推進

- フリーアドレスを一部の部署で試行導入しました。これに併せて、座席・予定管理ツールである「Work Now」を全社に導入し、誰がいつどこで働いているかを一目で把握できるようにしました。
- 様々なシチュエーションを想定したオフィス環境を用意することで効率的な働き方の実現を目指すとともに、チームの垣根を超えたコラボレーションの創出にも取り組んでいきます。

◎コミュニケーションツールによる情報発信

- 社内ポータルサイトやＳＮＳツールによる情報発信をとおして、社員同士のコミュニケーション活性化やナレッジ共有化などを進めていくこととしております。
- 組織や職場を超えたコミュニケーションを可能にすることで、従業員のエンゲージメントやモチベーションの向上に取り組んでいきます。



6．更なるDX推進に向けて

DX推進達成度の指標として以下の管理指標を定め、DXの推進状況を定量的にモニタリングし、施策の是正・追加を行いながらDXを推進していきます。社内のDXにおいては、既存業務のプロセス見直しや効率化等を推進するだけでなく、経営基盤である人財への教育投資を積極的に行うことにより、将来を担うDX人財の育成強化に取り組んで参ります。更には、社内の取り組みで蓄積した知見やノウハウを活用しながら、社外のDXとしてお客さまの課題解決や新たな価値の創出にも挑戦していきます。

	管理項目		管理指標
社内のDX	【ビジネスモデル改革】 ①既存領域の構造改革	T-DXとして推進	• 既存業務のプロセス見直し・効率化等に至った取り組みの**件数**
	【人財育成】 ②DX人財の育成	経営政策として推進	• クラウド、機械学習・データ分析、情報セキュリティなど、専門性の高いIT技術者を育成した**人数**（IPA資格、ベンダー系資格、民間資格の取得者などを想定）
社外のDX	【新たなビジネス基盤創出】 ③新分野へのチャレンジ	社内DXで蓄積した知見・ノウハウを活用	• 新たなビジネス領域の開拓や新サービスの創出にチャレンジした取り組みの**件数**

トインクスは、これからも失敗を恐れずに社内のDXを推進し「変わる、変える」に挑戦し続けます。そして、自らの経験を活かして新たな価値を創出し、東北電力グループのIT企業としてお客さまによりそい、社外にもDXの輪を拡げてまいります。

TOINX

ITで、感動を、ともに。